



倉敷らしさを取り入れた設計は難しいですが、  
自分が手掛けたもので倉敷らしさを  
感じてもらえると考えたら、やりがいがあります。

機械技術職 建築部 公共設備課

篠崎 亮輔 (しのざき りょうすけ)

平成29年度入庁

## なぜ、倉敷市職員に？

私は大学卒業後に民間企業にて数年間設計関係の仕事をしていましたが、結婚が近づくにつれて、自分の身近な人に利用してもらえる様なものも設計したいと思うようになり、誰もが利用できる公共施設を取り扱う公務員を目指しました。特に倉敷市は子育てしやすいまちづくりとして子ども達が利用する学校や公園などの公共施設の整備事業に力を入れており、自分がその設計に携われる機会が多く、安全・安心で快適に過ごせる様な住環境を提供できるのではないかと思います、倉敷市職員になることを志望しました。

## 現在担当している仕事内容は？



公共設備課の主な仕事は、安全で使いやすい環境に配慮した公共建築物の、建築設備の設計・施工監理を行うことです。公共設備課では、取り扱う建築設備によって電気設備係と機械設備係に分かれており、私が所属する機械設備係では、手洗い・水飲みといった給排水設備や換気扇・エアコン関係といった空調設備などを取り扱っています。

現在、私が担当している工事では、公園のトイレや水飲み場のリニューアルや、学校にエアコンを設置したりしています。まず設計業務では最初に、その施設を利用する方との話し合いを行って要望が何かを確認します。次に公共工事の設計基準や様々な法律をクリアしながら、予算の範囲内で要望を設計図として形にしていきます。建築物全体のカッコよさや、照明などの電気設備との取り合いを考える必要があるため、設計をするときには建築技術職・電気技術職の方との話し合いが重要になります。施工監理業務では、工事現場に行き、業者の方が行っている工事が工程通りに進んでいるか、設計通りになっているかを確認します。時には、予期できない事で工事に影響が出る場合がありますが、業者の方と打合せをしながら軌道修正して工事を進めていきます。

なかでも印象に残っている出来事は、公共施設の下水切り替えのために排水配管の引き直し工事を行った時のことです。地下に配管を通すための掘削作業中に、事前調査で調べていた建築構造と違うことが分かり、設計通りに施工を進められない場面がありました。工事期間内に工事を完了させなければならない中で、施工の面で施工業者の方、建築構造との取り合いの面で建築技術職の方を交えた打合せを行い、早期に対応策を決めて工程通りに工事を進めることができました。公共建築物を完成させるまでに多くの方が携わっており、より良いものを提供するには関係者との協力が大切だと感じました。

## 倉敷市職員になってよかったことは？

倉敷市は、美観地区の様に昔ながらの街並みを残している街です。新しい建物・設備をつくる際には、その街並みにあったデザインまでを考慮した設計をすることがあります。街を見渡すと倉敷らしさを出すためのこだわりのある設計をしているものがあり、自分が設計する側になって初めて気付くものもあるため面白いです。倉敷らしさを取り入れた設計は難しいですが、自分が手掛けたもので倉敷らしさを感じてもらえると考えたら、やりがいがあります。



## 志望者に向けてメッセージ

技術職ということで専門知識が必要な場面が多くあります。入庁するまでは不安でしたが、一年目の職員には先輩職員がトレーナーとして付けてくれるなどのサポート環境がしっかりしており、入庁後に困ることはありませんでした。私が所属する公共設備課は若い職員が多く、前職を経験している方も多くいます。新卒の方でも、前職を経験した方でも働きやすい環境です。倉敷市の街をより良くしたいという思いを持つ方、ぜひ来て下さい。